

## 損保ジャパンの本社ビルの取組みが、優秀ファシリティマネジメント賞を取得 ～築50年ビルでのオフィス改革と全国への展開～

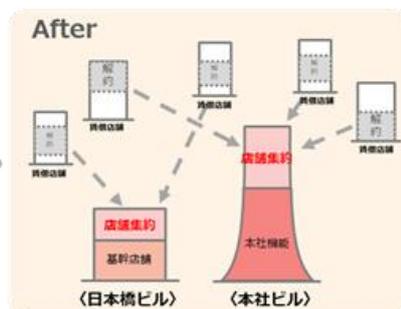
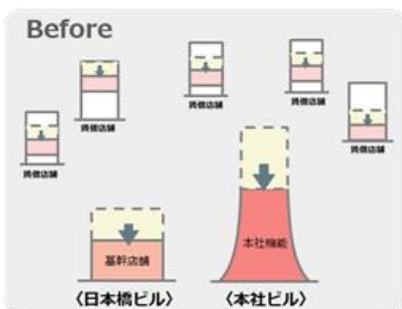
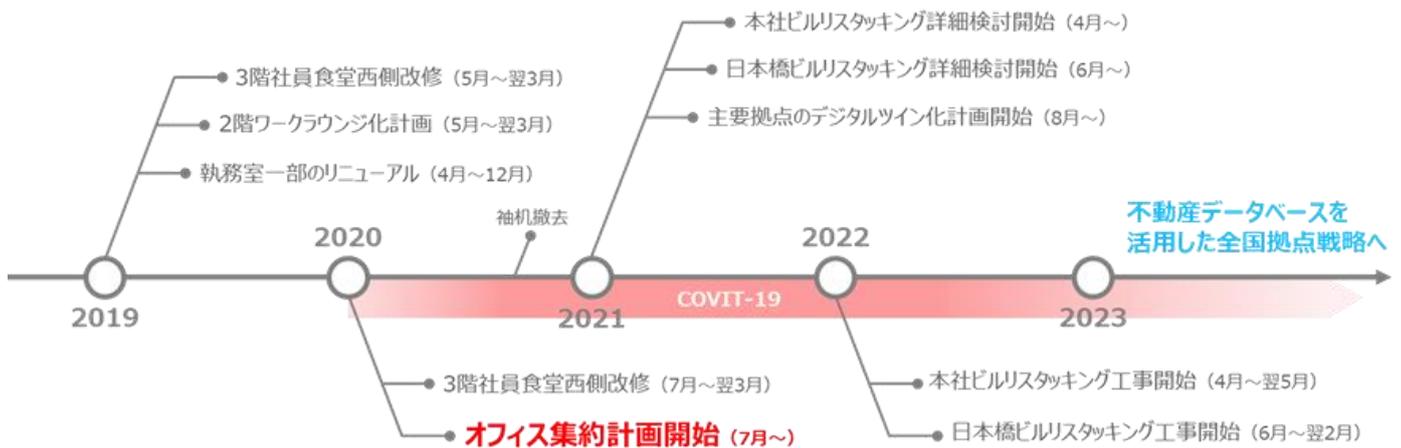
損害保険ジャパン株式会社（代表取締役社長：石川 耕治、以下「損保ジャパン」）は、公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会（以下、「JFMA」）が主催する「第19回 日本ファシリティマネジメント大賞」において、「優秀ファシリティマネジメント賞」を受賞しました。本賞は、ファシリティマネジメント（以下、「FM」）により優れた成果を上げた企業や団体を対象としています。このたび、本社ビルの全面リニューアル及びDXを活用したオフィスづくり、更にはそのFMナレッジの全国展開が評価され、損害保険業界初の受賞に至りました。

### ■ 受賞概要

- ・応募タイトル：築50年ビルと挑むオフィス改革～培ったFMナレッジの全国展開
- ・主な取り組み：

- ① 大規模ビルでの「居ながら工事」による、魅力あるオフィスへの改革とコスト削減
- ② デジタル化・数値化によるデータドリブンの迅速な意思決定
- ③ 経営と密に連携をとりつつ、社員の意識改革を段階的に実施
- ④ 築50年のビルを「活かす」ことでのSDGsへの貢献と、ライフサイクルコストの削減
- ⑤ 全国及びSOMPOグループ全体へのFMノウハウ拡大・FM人材育成への展開

#### 【概要】



## ■ 審査員コメント

日本の損害保険大手企業のFM活動の応募である。2018年より築50年の本社オフィスについて検討を開始し、既存フロアでのパイロットオフィス試行、その結果を踏まえて、建替えではなくリニューアルの提案を行うなど、ボトムアップのFMが経営陣から評価された。テレワークを含む本社オフィスのあり方を再定義し、都内の拠点集約化に取組み、2023年には本社ビルと日本橋ビルの2拠点での新しいワークプレイスが稼働した。人事制度改革と働き方改革を連動させ、拠点集約化により数億円／年の賃借料削減を達成し、ワークプレイス改革の原資としている。また、BIM<sup>※1</sup>による計画のシミュレーションなどDX施策も行っている。さらに、FM推進体制を整備して、2024年からグループCRE<sup>※2</sup>を統括する部門を発足させ、全国店舗での継続的なFMの進展へとつなげている。とくに、FMの研修を進め、20名の認定ファシリティマネジャーがFM組織で活動するという優れた体制整備がある。

※1 : Building Information Modeling (コンピューター上に現実と同じ建物の立体モデル (BIMモデル) を再現して、よりよい建物づくりに活用していく仕組み。)

※2 : Corporate Real Estate (企業不動産。企業が保有 (賃貸借) をしている土地や建物のこと)

(第19回日本ファシリティマネジメント大賞 (JFMA賞) 入賞発表より引用)

<http://www.jfma.or.jp/award/page1.html>

損保ジャパンは、今後もFMにおける先進的な取組みを進めることで、SOMPOグループ全体でのイノベーションの発現を促し、SOMPOのパーパスである「“安心・安全・健康” であふれる未来へ」の実現を目指します。

以上